

## 慢性閉塞性肺疾患 (chronic obstructive pulmonary disease: COPD) 患者の 10 年生存率に 影響を及ぼす因子 (生活習慣、食習慣、運動習慣) の検討 —コホートスタディー

慢性閉塞性肺疾患 (COPD) は喫煙が主な原因で起こる肺の生活習慣病です。欧米では 1960 年代から禁煙政策が進んでいるため、20 年後には COPD 患者数は頭打ちになるといわれているのに対し、日本は世界第 5 位の喫煙国であるため、日本の COPD 患者数は今後 40 年間増加していくだろうと予測されています。しかし、日本の COPD 患者さんの死亡率は、諸外国の中では最も低く、それは日本の伝統的な食物や生活習慣が COPD 患者さんの死亡を防いでいるのではないかとわれてきました。しかし、今までに日本の食事と COPD 死亡との関連を調べた研究は、行われていませんでした。そこで私たちはまず、2005 年から 2007 年にかけて「COPD の予防因子」を発見するための調査をし、大豆食品、果物の摂取、生涯を通じて身体活動することが COPD 予防につながることを見つけました。その際にはご協力いただきどうもありがとうございました。あれから 10 年経過しましたので、今回の調査では COPD になってもお元気で暮らしていける秘訣は何かを調べたいと考えています。

この研究では、2005 年 7 月 1 日から 2006 年 12 月 31 日までの間に本院を含め愛知県、岐阜県、京都にある 6 つの病院に通院されていた COPD 患者さんで、当時行われたアンケート調査にご協力いただいた方 277 名を対象とさせていただきます。

この研究では、通常診療で使われているカルテに記載されている生年月日、性別を収集し、前回調査の内容と合わせて分析することにより、COPD になっても元気で過ごせる秘訣を調べます。この研究を行う期間は、この研究が許可されてから平成 29 年 3 月 31 日までです。

本研究に関する必要な経費は、文部科学省科学技術振興調整費補助金等による研究費でまかなわれており、九州大学先端融合医療レドックスナビ研究拠点・助教 (ネット医療グループ長)・安川圭司と特任助教・平山ふみを中心に研究を行います。この研究では、集計・解析に際して匿名化して情報を取り扱い、対象者の個人情報厳重に保護しています。豪州カーティン大学、公立陶生病院、小牧市民病院、豊田厚生病院、平松内科呼吸器内科、大垣市民病院、京都桂病院が共同研究施設となっています。

上記に該当する方で、この研究についてのご質問や研究協力の拒否を希望される方がございましたら、お手数ですが公立陶生病院呼吸器・アレルギー疾患内科医師・木村智樹 (電話 0561-82-5101) までご連絡いただければ幸いです。

研究責任者: 九州大学先端融合医療レドックスナビ研究拠点・助教 (ネット医療グループ長)  
安川圭司

研究分担者: 九州大学先端融合医療レドックスナビ研究拠点 ネット医療グループ・特任助教  
平山ふみ

研究協力者: 公立陶生病院 呼吸器・アレルギー疾患内科部長 谷口 博之

研究協力者: 公立陶生病院 呼吸器・アレルギー疾患内科部長 木村 智樹